

## -CARDセミナーのお知らせ-

### 第155回CARDセミナーを東京で開催致します。

日時: 8月26日(金曜日)午後2時~4時

場所: キャンパス・イノベーションセンター1F 国際会議室

東京都港区芝浦3-3-6

(TEL) 03-5440-9020

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/contents/JOINT/tokyo-liaison.htm>

最寄駅: JR山手線・京浜東北線 田町駅下車 徒歩1分

都営三田線・浅草線 三田駅下車 徒歩5分

講演者: 中瀧直己(熊本大学生命資源研究・支援センター)

タイトル: マウスバンクにおける国内外の最近の動向

近年、遺伝子の機能解析およびそれに関連した研究開発が、国家プロジェクトとして世界中で盛んに行われている。その中で重要な役割を果たしているのが遺伝子改変マウスであり、最近、その数が、加速的な勢いで増えることから、これらマウスの維持管理が、世界中の実験動物施設においてきわめて深刻な問題になっている。

そこで、昨年11月に米国のジャクソン研究所で、世界の主要なマウスリソースセンターが一同に介し、マウスリソースを国際的に供給する体制を築くための第一回目のRound table meetingが開催された。

さらに、本年4月にローマで第二回目のround tableが開催され、Federation of International Mouse Resources (FIMRE) が結成された。

また、アジアにおいても、Asian Mouse Resource Association (AMRA)を結成すべく、様々な取り組みが成されつつある。一方、そのような動きと相まって、マウスの系統維持も凍結胚での保存が主流になっており、病原微生物汚染の観点からマウスの授受も凍結胚で行われる傾向が年々高くなりつつある。

また、胚の凍結保存も、交配した雌から8細胞期胚を採取して緩慢法で凍結保存する従来のスタイルから、体外受精により2細胞期胚を作出し、短時間で操作が完了する簡易ガラス化法で凍結保存するパターンが増えつつある。

さらに、最近では、精子の新しい凍結保存液、前培養液も確立されつつあり、凍結精子を用いた様々な受精法、すなわち、一般的な体外受精法に加え、透明帯穿孔卵子を用いる方法、あるいは1匹の精子を直接卵子内へ注入する顕微受精などの技術も開発されている。

本セミナーでは、マウスのバンキングシステム、胚・精子の凍結保存およびこれら凍結細胞を用いた供給体制について述べる。

\* 当日、新しく共同開発したマウス精子の保存液、前培養液およびHTFのサンプルとそれらを用いたマウス精子の凍結・融解マニュアルCD1枚を無料進呈いたします。ふるってご参加ください。

参加申し込み先(参加無料)

磯貝 郁

熊本大学生命資源研究・支援センター

動物資源開発研究部門(CARD)・資源開発分野

〒860-0811 熊本市本荘2-2-1

Phone: 096-373-6570

FAX: 096-373-6570

e-mail: fumiisog@kaiju.medic.kumamoto-u.ac.jp

なお、参加人数は100名までとさせていただきます。